

審査の結果の要旨

氏 名 スックプロームサン ブンシリ

本研究は、タイ王国における都市基本計画の策定における市民参加制度を整理し、バンコク市、チェンマイ市、ナーン市を対象としたケーススタディをもとに都市基本計画の策定実態と課題を明らかにしたものである。

具体的には、まず、都市基本計画における市民参加を分析する枠組として、実効性 (efficacy)、情報への近接性 (accessibility)、住民の主体形成 (education and empowerment)、参加の包括性 (comprehensibility)、参加の継続性 (continuity)、公平性 (impartiality)、コミュニティ組織の形成 (creating community organization) の7つの視点を、既存研究をふまえて整理した。

また、タイ王国における都市基本計画の策定過程を、6つの過程に区分した上で、法制度によって保障されている市民参加手続の位置づけを明確にし、想定される課題を整理した。

その上で、バンコク市、チェンマイ市、ナーン市をとりあげて、都市基本計画の策定過程における市民参加の実態と課題を把握している。ここでは、まず各都市別に、市民参加に関する各種の試み・行政行為を6つの計画策定過程毎に整理し、各試みの意義や位置づけを確認しながら、計画策定過程の全体について、7つの視点にもとづいて、市民参加の成果と課題を明らかにした。

続いて、計画策定過程において提出された住民からの要望が集積して存在しており、また計画策定上も重要な論点が存在していた地区をとりあげ、インタビューおよび調査票を配布し調査 (サーベイリサーチ) を行い、各市の行なった市民参加の試みに対する当該地区の住民による評価を明らかにした。

以上の検討から、以下の通りの知見を明らかにしている。タイ王国における都市基本計画に対する市民参加では、住民への情報提供の面では、バンコク市においては、プランナーが計画情報を分かり易いかたちで整理し提供することや、新聞社などマスコミを活用することで市民に広く計画の内容を周知すること、などが試みられていた。これらは、情報への近接性 (accessibility) 及び参加の包括性 (comprehensibility) の観点から評価されるものであった。また、

チェンマイ市、ナーン市においては、法制度上保障されている市民参加の手続以外にも、それに連続・継続させる形で市民の声を反映させるコミュニティベースの意向調整の試みが行なわれおり、このことが住民による市民参加の評価の向上にもつながっていた。こうした試みは、実効性 (efficacy)、住民の主体形成 (education and empowerment)、参加の継続性 (continuity)、公平性 (impartiality)、コミュニティ組織の形成 (creating community organization) の観点から評価され得るものであることが明らかになった。

当該研究によって明らかになった知見は、以下の通り、都市計画研究としての新規性と有用性がある。

第一に、これまでタイ王国における市民参加の実態としては、地区レベルの住環境改善や歴史的環境保全に関しては先行研究があったが、都市全体を対象とした都市基本計画策定における市民参加の実態と課題については、本研究によって始めて明らかになった。

第二に、タイ王国においても、法制度によって用意された一般的な市民参加制度を通じた意向収集を工夫することで、市民の意向を一定程度集めることは可能である。その一方で、制度外の (インフォーマルな) 参加の試みを計画策定の重要な 이슈に着目して行なうことが有効であり、また参加の実行性を高める上で必要である。このような、タイ王国における都市基本計画策定の実践の場においても有用と考えられる知見を明らかにしたこと。

第三に、上記のような方法については、経済・社会的に徐々に成熟しつつある他の発展途上国においても、応用できる可能性がある知見であること。

審査会においては、評価の視点の導出方法や、ケーススタディから明らかになった点、とりわけ調査票の配布調査から明らかになった事実をどのように捉えるべきかについて議論がなされたが、これらについても十分に配慮された研究であることが、質疑を通じて明らかになっている。

よって本論文は博士 (工学) の学位請求論文として合格と認められる。